

# ウソと泣き言を書きつらねた「動力車新聞」

# 日刊 動力千葉

81.2.15  
No. 全日版 77

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(電話)二九三五・六(会衆)三三三三・七二〇七

\*\*\*\*\*

全国の動力組合員のみなさん。  
本紙(全国版七六号)で既報の通り、動力千葉は千三百組合員の一月総決起行動をもって、「本部」革マル反動分子による動力千葉解体Ⅱ八一・三ジェット延長阻止スト破壊を唯一目的にした一・三〇「再建地本」デッチ上げ策動を粉砕しました。あまりにもミジメな破産的事態においつめられた「本部」革マル反動分子は、それを隠ぺいし、あたかも「再建」策動が順風満帆進んでいるかのごとく描きだすために「動力車新聞」一三六一号をもって「千葉再建大会圧倒的成功」等と宣伝しています。その記事の内容をみれば一目瞭然、ウソと泣き言が列記されたものであり、およそ「圧倒的成功」等とは程遠いデッチ上げによる空虚なものに終ってしまったことは、当日千葉県労働者福祉センターにかり出された動員者が一番よく理解しているのです。われわれは、「本部」反動分子の泣き言は泣き言としてせいぜいワメカしてやることにします。しかしウソとペテンは事実をもって粉碎してやらねばなりません。

## 「再建大会」の虚像と破産した実像

全国の動力組合員のみなさん。まず「千葉再建大会圧倒的成功」なる記事をよく熟読してみて下さい。彼らが報じる記事内容によると「再建」茶番劇の虚像性をはっきりと見てとることが出来ます。

『一』十二月銚子支部再建決定したが、「千葉動労」側の妨害策動によって一月二七日支部臨時大会で再建決定をひとまず白紙にもどすことにした。しかし心ある多くの組合員は必ず再建地本に合流することを固く決意しています。

『二』「千葉動労」はマスコミを使って「混乱・衝突」を描きだした。国家権力は「大会を中止してくれ」と言ってきた。

『三』大会成功こそ最大の目標、全組合員の確認のうえ千葉事務所会場を移し再建大会開催を決定した。

『四』「千葉動労」は大会破壊を策し準備委員会が案内した各方面の来賓にもオドシ泣き落して圧力をかけた。しかしことごとく失敗した。

『五』大会は代議員・傍聴者五十名を結集して成功し、山下・斎藤・土屋新三役を決定した。……』

以上が「本部」革マル反動分子によって描かれた「再建」劇のストーリーです。しかしこれは真赤なウソでありペテンであります。

一月二七日銚子支部臨時大会は、当時の支部長が臨大招集を行い「業務再開」を提案したのであります。この執行部提案を大会の場で銚子支部組合員が自ら選択し満場一致否決したのであります。

\*\*\*\*\*



五〇名の機動隊放水車・装甲車まで要請して守った会場。しかし、中味も無く大破産。

つまり銚子は「業務再開」に全員が反対し、「本部」への方向をとる道は拒否したのであります。厳密にいえば「本部」革マル分子の顔見知りのYサンのみが「本部」への可能性があるだけなのです。

『二』については、全く逆であり、権力に会場の警備要請を行い、権力に守られて挑発を繰り返したのは「本部」革マル反動分子であります。その事実は本紙全国版七六号・六七四号を参照されれば一目瞭然であります。

『三』については、全組合員の確認などでなく、千葉内「本部」派分子が「内部造反」を起し、わが動力千葉の決起によって福祉センターに一步も近づけず粉砕され破産した結果の言い逃れであります。

『四』については、社会党県本・県労連・県内主要単組に「大会」参加を拒否された逆らうらみをデマ宣伝によってごまかそうとしているにすぎません。現に「再建地本」の県労連加盟申し入れは却下されているのです。

『五』は、五〇名どころか、結果は三〇名ソコこの内の半数は短期転勤者で一二年先に帰局する者であり組織的展望もない裸の姿をさらけだしたにすぎません。しかもこの「大会」自体デッチ上げであり、その証左に「再建」したといいつつ今まで通り「業務」は「千葉事務所」が代行し、「代表者」は革マル分子・緒方某であるのです。

全国の動力組合員のみなさん。  
これが「再建」されたという実態です。こんなペテン的「再建」に数億円もの貴重な組合費をつぎこむ「本部」革マル反動分子の責任は重大です。一刻も早く彼らを動力から一掃し動力大改革を共に成し遂げようではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!